

未来の地球のために今の自分ができること ～「みつけたエコへの配慮」の実践から～

4月～12月 (20時間)

1 ねらい

修学旅行先の東京都にある企業や自治体の環境対策を意識してみることにより、技術国日本の一員として環境問題解決への取組について実感することで、環境問題や新技術に対する興味を引き出す。その取り組みに関心をもつことで日常の中でのエコや地元での環境へ取組を考える気持ちを育てる。

2 実践の概要

(1) 随時学年集会を実施し、活動内容の共有化・共通化を図る。(学年→学級→小グループへの活動)【4月】

(2) 環境家計簿の実施【4月～12月】

(2) 東京(横浜)での散策・探究活動【5月】

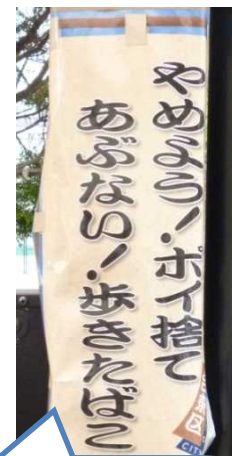
「見つけたエコへの配慮」というテーマを設定し、企業や行政の取組んでいる環境改善へのプロジェクトを知るために、修学旅行で散策中も意識して周囲を見る。見つけたものは各班で持っているデジカメで随時記録し、必要ならメモを取っていく。

国会議事堂の駐車場で見つけた燃料電池自動車



生徒の撮影映像例

原宿の街中で見つけた太陽光と風力ハイブリット発電機



生活環境の美化

(3) 城北学区での散策・探究活動【6月】

次に、城北学区でも同じような散策・探究活動を行い、岡崎でのエコへの配慮を探した。

(4) 学級別発表会【7月】

地元・城北学区と大都会・東京(横浜)のエコへの配慮に注目して、2カ所を比較しながら、写真データでまとめた資料映像をテレビに映しながら班ごとに発表する場を設定した。自分たちで撮ってきた映像なので、映像を見ながら自分自身の考えも加え、スムーズに発表をすることができた。【7月】

(5) その後の生徒たちの活動・変容【8月以降】

「今の自分たちができること」をサブテーマに、学習したことを生かして、自分の生活を見直していくことを意識して活動を進めた。次のような生徒の姿が見られた。

- ・夏休みに、なるべくエアコンをつけないように頑張った。(環境家計簿をつけて、何とか数値を減らすため)
- ・コンビニに行くときは車でいかにないように父親にしつこく言い続けて、習慣化してもらえた。
- ・今秋に、自分の家に太陽光パネルを設置でき、モニターを毎日チェックして生活している。
- ・給食を残さずに食べよう運動を学年で実施した。(8回)
- ・ある生徒が経営している工場で、ISO規格を取得するように、父親に頼みにいったグループがあった。
- ・将来、環境に配慮したことができる仕事に就きたいと思うようになった生徒が出てきた。

(6) 今後の課題

計画的に活動が展開できず、生徒たちの自主性に任せた流れになってしまった。企業に環境を配慮した提案書を提出したり、市役所などに提言をしたりする大きなビジョンでの活動を視野に入れていきたい。